

朝の礼拝

聖書 詩編 95 編 1-2 節 (旧約聖書 933 頁)

- 1 主に向かって喜び歌おう。
救いの岩に向かって喜びの叫びをあげよう。
- 2 御前に進み、感謝をささげ
楽の音に合わせて喜びの叫びをあげよう。

喜び歌おう

人間の感覚を「五感」と言います。視覚、聴覚、嗅（きゅう）覚、味覚、触覚です。目で見ると、耳で聞く、鼻で嗅ぐ、舌で味わう、肌で触れる感覚です。その中で聴覚は母親のお腹にいる時から発達しています。赤ちゃんは生まれた直後から母親の声を認識しています。母親の言葉の意味がわからなくても、母親の声の響きに反応するのです。

海を泳ぐイルカも人間のように話しません、鳴き声で喜びを表現し仲間に餌となる魚がいることを知らせたりするそうです。また、クジラの声は約500キロ離れた仲間にまで届くそうです。それは東京から大阪まで届くことになります。音には言葉以上に人間や動物の魂に響くものがあるのでしょうか。

聖書には旧約聖書と新約聖書があります。その「約」というのは契約、約束のことですが、英語ではTestamentと言います。元の意味は「遺言」です。親から子、孫へと伝える大切なことを指します。でも最初は紙も鉛筆もありません。ですからその遺言を歌にしたのです。それが詩編の始まりです。歌にして祭りの度に、楽器を奏で、舞を踊りながら、共に歌い伝えたのです。

小さい頃に歌った歌は忘れません。卒業生がよく口にしますが、礼拝で読まれた聖書は忘れても讃美歌は忘れないと言います。若い頃、私が単身アメリカの神学校に留学した時、最初は言葉に苦勞し心細い

思いをしました。しかし礼拝で自分の知っている、日本の讃美歌と同じ調べが流れた時に、身体が震えるほど嬉しく喜びを感じました。神様が共にいて下さいました。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたはわたしたちに讃美歌の調べを与え、わたしたちを励まして下さいます。どうか、今日一日もすべてをあなたに委ね、御心に適う道を歩ませて下さい。

今、様々な理由によって就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうか主の慈愛を悟り、主の御前で共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与え下さい。主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。アーメン